

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

| | |
|--------|--|
| 学校名 | 大阪府立箕面支援学校 |
| 取り組む課題 | 生徒の自立支援 |
| 評価指標 | 1 学校教育自己診断において本校の教育活動に関する肯定的評価（保護者・教職員）の向上 2 児童、生徒の健康保持、身体能力の向上 |
| 計画名 | みのおしえん パワー自立活動プロジェクト ～パワープレート等で自立活動の充実を～ |

2. 事業目標及び本年度の取組み

| | |
|------------------|---|
| 学校経営計画の 中期的目標 | <ul style="list-style-type: none"> ① 教育環境（ICT 機器、自立活動に関する機器）を整備し、それらを活用した指導内容の充実を図る。 ② 自立活動指導におけるより広範でレベルの高い専門性の向上をめざす。 |
| 事業目標 | <p>パワープレートやフィットネスマシン等の機器を整備し、自立活動の充実を図ることにより、障がいのある児童、生徒の健康度や身体能力の向上に資するとともに、主体的に自己の健康づくりに取り組む意識づくりを目指す。</p> <p>また、様々な機器を活用した標準的な自立活動プログラムを開発することで、教員が安心かつ安定して子どもたちに提供できる自立活動の充実を図る。</p> <p>これらの取組みにより、初年度に学校教育自己診断の本校の自立活動に関する肯定的評価がすでに 80%を超えているが（H30 年度 85%、R 1 年度 86%）さらに向上した。3 年めには 90%を越えることを目標とする。</p> |
| 整備した 設備・物品 | <p>スタイルドクターチェア（2）、ドクターエアストレッチロール（1）、スタイルキッズ（Mサイズ）（1）、スタイルキッズ（Lサイズ）（1）、ストレッチポール半分カット（1）、レインボーパテ（6）、ロディマックス（1）、ロディ（1）、スラックレール（4）、ミオフェーズ（1）、ムービングクッション（1）、ムービングクッション Jr（1）、スクワットサポートシート（1）、フロッグスライドスクーター（1）、スライディングボード 180cm（1）、コアトレーニングボール（1）、バトルロープ（アンカーストラップ付）（1）、ウェイトベスト（10kg）（1）、レジスタンスパラシュート（1）、肩甲骨ストレッチャー（1）、介助用ベルト（1）、ハイパースフィア・ミニ（1）</p> |
| 取組みの 主担・実施者 | <p>主担： 自立活動ワーキングチーム、自立活動部</p> <p>実施者： 自立活動の時間の授業担当者</p> |
| 本年度の 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ① 夏期休業中に、パワー自立活動の概念と方向性について、校内研修会を実施。 ② 校内自立活動領域研究会にて、大学教授を招聘してパワープレート等の実践例紹介。 ③ 本校 2 階自立活動室に各種機器を集約と環境整備し、パワー自立活動を 2 学期より本格的に自立活動の時間に取り入れ開始。 ④ 2 階自立活動室の各種機器の基本的使用マニュアル等を整備。 ⑤ パワープレート取扱い代理店よりトレーナーを招聘し技術指導と助言を受ける。 ⑥ 通年で取り組んでいる、自立活動教諭による自立活動の時間の授業入り込み助言で、児童生徒の特性に応じた機器の選定、使用目的と方法を担当教員にアドバイス（小・中・高等部）。 ⑦ 3 学期に自立活動教諭によるパワー自立活動実践例報告を校内研修会で実施し、全校的に機器の使用実績等の共有化。 ⑧ 大阪肢体不自由児研究会にて、本校のパワー自立活動の取組みを、自立活動部の教員 2 名が実践報告。 |

| | |
|--------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> z 本校の研究紀要において「パワー自立活動」の取組みについて報告。 z 来年度の取組みに向けて、自立活動ワーキングチーム3名によるマニュアル作成検討会議日程をスケジュール化 |
| 成果の検証方法と評価指標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育自己診断において本校の自立活動に関する肯定的評価（保護者・教職員）80%以上。（H30年度 85%） 2 児童生徒の健康保持向上を示す指標として、「パワープレート等使用者数の推移」における使用者数の向上 3 年2回の校内研修会実施 |
| 自己評価 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育自己診断において本校の自立活動に関する肯定的評価（保護者・教職員）が80%を超えた。（R1年度 86%）……………（◎） 2 自立活動ワーキングチームを主体に、全学部の多くの教員の積極的な協力を得て、児童生徒の実態にふさわしい環境整備ができた。自立活動の時間における実践や利用についても、当初の自立活動教諭による各児童生徒への使用方法に関するアドバイスで徐々に浸透していき、R1年度末現在では、各教員が主体的に機器を選定・調整して利用できる状況に達した。また、新たな児童生徒にも積極的に利用を広げている。 「パワープレート等使用者数の推移」において使用者数が増加しており、自立活動の時間以外でも、高等部生活課程の知的障がいの生徒が、昼休みの時間や部活動等でパワー自立活動の機器が積極的に活用していることが数字に表れている。 朝のランニングの時間において、知的障がいの生徒たちのジョギング時の心拍数測定が購入した機器で行われ、運動耐容能の客観化と生徒へのフィードバック等の新しい取り組みが始まっている。……………（◎） 3 当初予定の2回の校内研修会の他、外部人材の招聘による勉強会等も実施し、開始当初の基礎的知識をしっかりと固めることができた。その他、外部研修会や校内研究紀要での報告を通して、外部への発信も初年度から開始している。……………（◎） 初年度の総括として、パワー自立活動の取組みは順調な滑り出しであり、本校の児童生徒と教員に好意的に受け入れられ、浸透しつつあると言える。 |
| 次年度に向けて | <p>初年度はリスク管理をしながら試行錯誤を行い、授業での実践例を積み上げてきた。この蓄積を文書化、マニュアル化していくのが次年度の課題である。各種機器の使用法、そして組み合わせ方などについて、自立活動ワーキンググループで実践例をまとめながら検討し、簡易マニュアルを編集する。また、本校のパワー自立活動の取組みを全国肢体不自由児研究協議会等で報告していく予定である。実際の自立活動の時間においては、パワー自立活動機器の授業内での取入れ方を、実際に教員が機器を使用している時間や方法などを観察しながら、提言していきたい。</p> |